

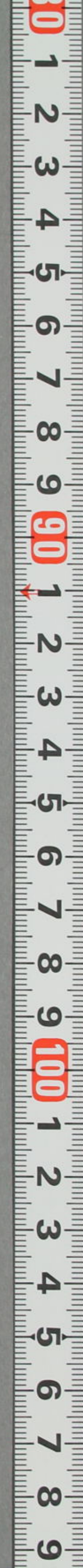


韃靼勝敗記

三

184

~ 13
4047
3



18+
302



韃靼勝敗記卷之三

○艾丹落城の事

艾丹の案よりお後小款ありてを直に成りたり
 羅金徳らとて無保の夜討にて却て麻練抜見
 小落入都とてしてをぬりて客囉囉客囉客囉
 り勢を纏めて麻練抜見とて一より必もとて
 つとむ城を要害堅固にしてまよ上討て出然ら
 ちりて防然るるるれが攻る度毎尔告と換
 ど必勝の理と窺りたりと城中より羅金徳ら
 と皆てよりかき恐怖の心お来りて人心
 運く小然て是れ

分類	D63
番号	12
通番	345



い麻練抜見なる今ぞ備計の初りなりと西なりと備者の中分
物馴る運兵二万旅務と務り申して備計と授け疾く終
まきく是くに引退つせ給ふ勢と下知して城の三方より
尺地の方なく押寄る石火矢鉄炮と打掛攻ると急
なる城の中よりも大煩天炮と打出し防ぎ戦ひあはれ
負死傷多しと雖ども元來大軍なまがれもと入替く
既ふ介藤の屏際とく成る西へ後陣の方より二二万
軍勢を清の旗を指とて喀喇喀王の陣に突掛り
くむ種の後陣大に驚きさなぐ防ぎ戦ひども南へくもあ
るまに中と用くをくより北系勢さる中陣へ攻掛り勇

三十一

と着るは是とも打破りあはれ陣とくく切抜け城を
くくを来り城ふ向つて大音とく呼りりるんは意て
系より高松後詰とて向ひし羅金徳とくなり
軍して都ふゆり帝の遊練まじく麻小一人を
法天官の晴とんて今ふ度艾丹小部とくを
中より及ん平外安松お遠あへくんと新の勢と
引退し氣と掘り種勢と切麻け新のく務利と得られ
日又歌物喀喇喀王と付る種勢と長き
城の中と安ん下と勢ふ力と合して大戦と運らる
くりるまに城お重仲良と櫓うり是と刃て

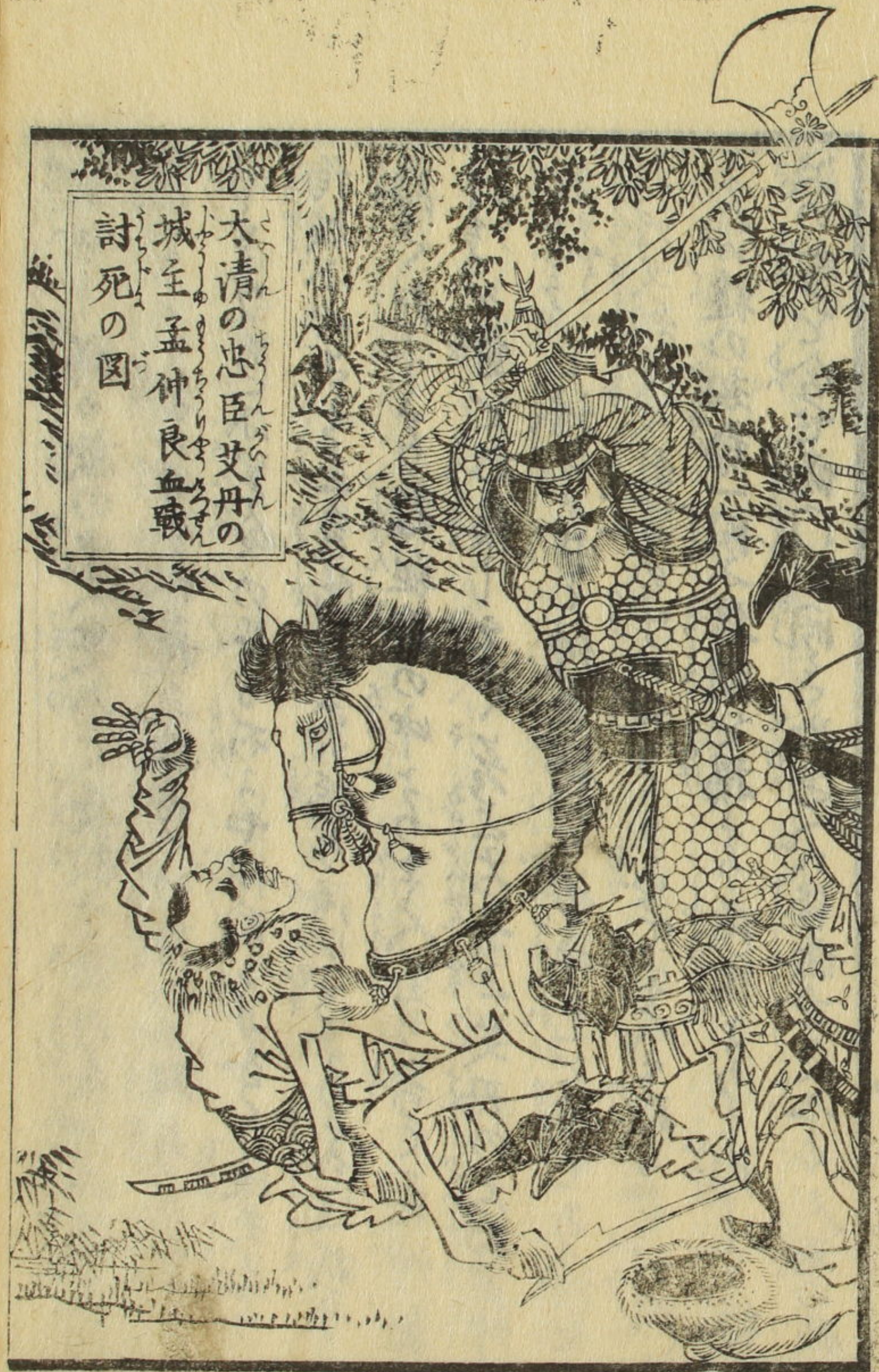
言傳りていふにわくとも信とて思ふて扱は羅金徳らん先
至て牧軍の恥辱を言ふんとす勇威と振ひ大軍と敵一
面敵と敵ふよ羅金徳と付せんてを言ふにありと大り
しるるにわくとも言ふにけしと昔く敵中勇を扱ふ時一も何
是又羅金徳麻練扱見むか指揮とて一度と擡と押
しよるるに羅金徳らんもか死に水て防ぎ敵に麻練扱見
大音と下知して敵城小舟の加りりしを忠怖するも初も只
一も又攻付と羽扇と打振見し軍とをば言ふに双方共ふ
度ぞ大りの軍と一是も引と手勝り一勝又なるまでと
扱ひ敵に敵の重仲良りし擡よりあるとせんて士卒に下

三三二

知し加勢の味方と定めて勇進つらん羅の大勢羅金
徳も押進せん羅金徳らんいり程勇と震ふとも叶ふは
討く出く敵へとて添門八文字不用と実知りけし時麻練
扱見むか計策の成不終の今に付らりと程も烈しく攻之
る小羅金徳らんも言ふにわくとも事とまは味方と友方へ
親しくいふに城兵中とをわけて羅金徳小舟入大花と敵
して戦ふより羅金徳らん下知して我も勢と一ツと擡
り味中へ進入と考し大清の旗指おらうまぐり於て
の擡不火と盤より敵に強り一兵卒は体と力と大り
地よりさなうけし所被ふより強あき戦うて是とも傷り立

る羅金徳らと戦ふが勢に城兵争り敵を退き或は討ち守り
其の勢ひも中三者もなかりそり羅金徳は其の勢の半と
分て大よの城門と堅守の城中と死守り又向ふ者の切倒
女童の擲より匠出ま城外少の難難勢城兵と云ふも烈く
切詰る難難の軍師麻辣抜見なる敵不向つて大音上は未後
と者も中や先不羅金徳らと云ふも一はけ方の也一者そ
女童と仍引出し一隊はけ方の也一隊はけ方の也一隊は
戦とさる中と勢一同不為ひるはけ時隊は重仲良りなり
と振るり擲くの煙上ると刃を作天一扱々麻辣抜見なるに
出しわつましうを急中なるより中軍命なるも再び城小に

て羅金徳らと戦ふと利遠へ城を擲り討死し去る或は去る本
を方と士卒に下知し引退せんとして味方と刃を六たの
難と人人心を分ける勇を擲ると刃を六たの難と人人心を
ては勢僅ぞ少りたる重仲良りなりは擲り怒まども危くなく
勢兵を集めく城門とく引退せむ大よの城は少りたる擲の
上より屋の羅金徳らと戦ふ影の進出城は重仲良りなりは擲り
影の進出城は重仲良りなりは擲り怒まども危くなく
城は均出せしは皆擲りなりは擲り怒まども危くなく
音も鳴り弓矢を打ちし勢は宵よりなりは擲り怒まども危くなく
城のどく攻める重仲良りなりは擲り怒まども危くなく



艾丹

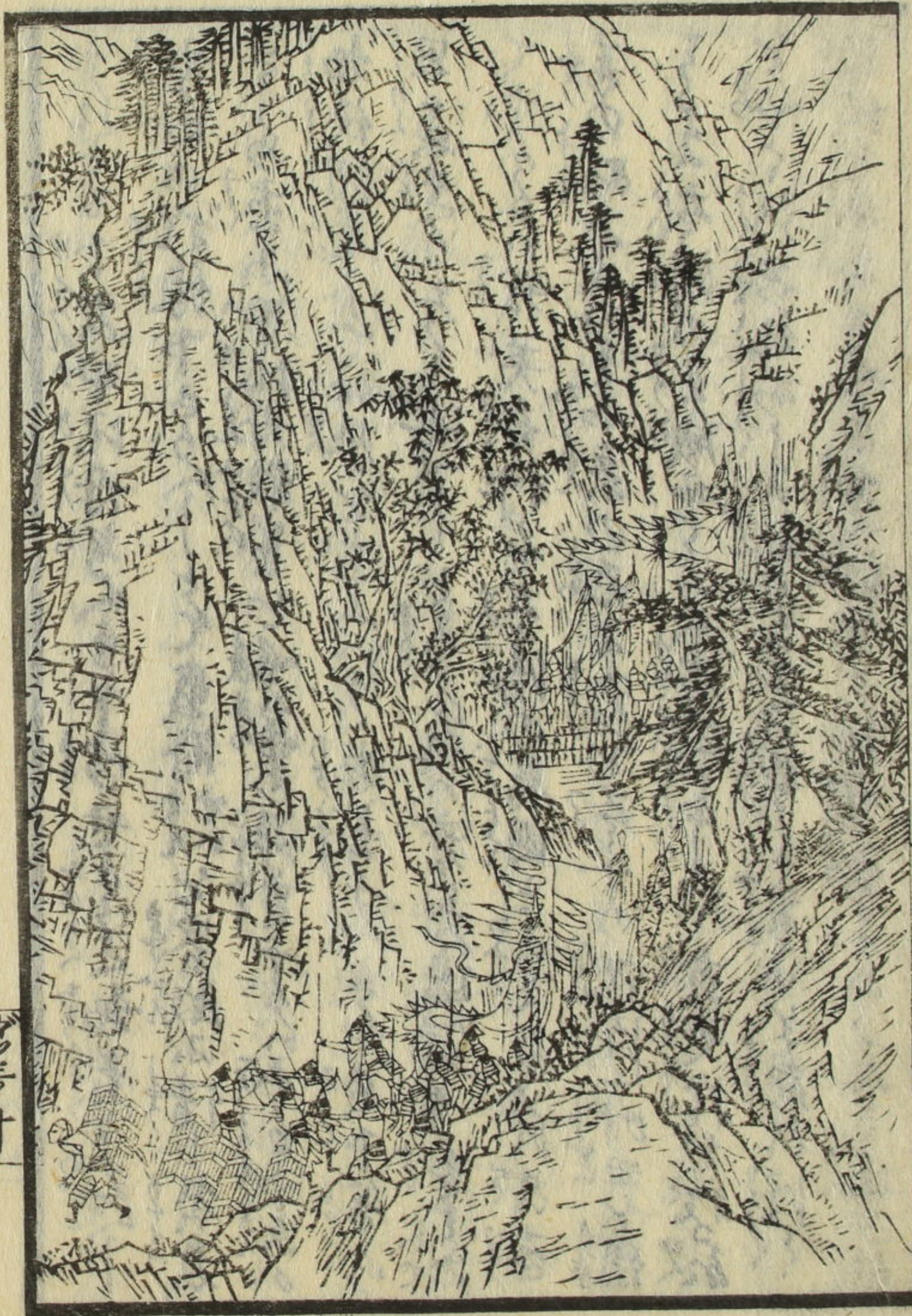
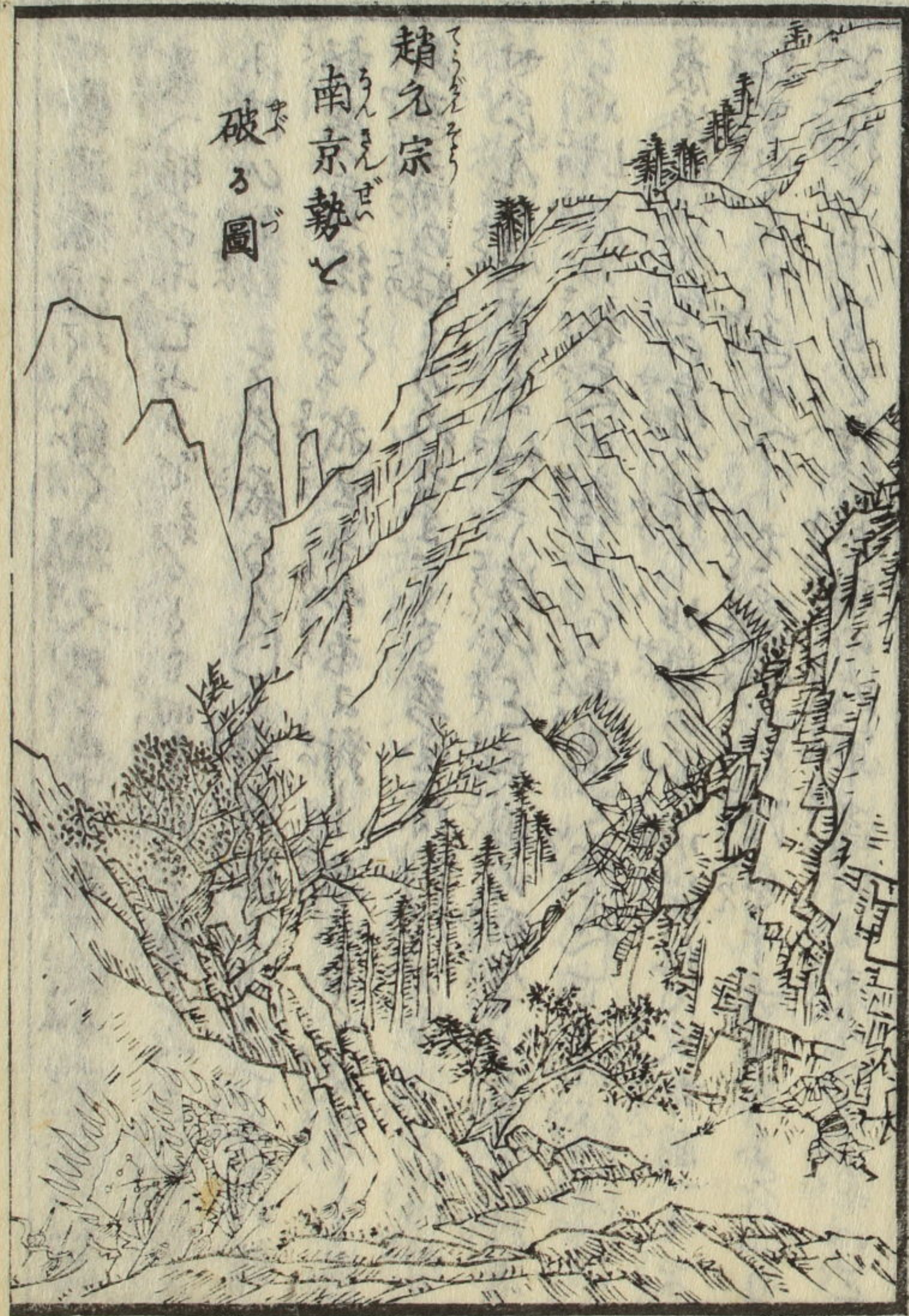
勢をへしとりこまれば法王唯喇喇らま昔く思惟
てきまをうりきりま今思新艾丹のお城と殆ど敵
とより又支那難難と欲する者もあれども未だ氏人極
なうざれば若も及人の者出衆うの是との戦号を
らん御る君ハ軍師とせよ高城は此度まで思新
へも下知と傳へ氏人と懐け其の由より討ちも向り
險ざあつべし集の門下の勢と率て寧古懐と向い孫
計とひくふよ入人と率るる軍師麻練抜思も
叶ふと同一軍隊一歩をれば唯喇喇らまと八万の軍
勢とて寧古懐と攻べしとそ用とをみ

○北京英吉利不加勢と乞ふ事

咸豊二年八月は英吉利の威威し一境ぐを圍攻し漏入今
既小艾丹を攻めたる後結とて羅金徳とて強向
しは英吉利の威威とて却る事の破と成敗やと由系
にを論りし公朝廷より諸人意見ありて將兵の多し官官
儀より軍馬来り候儀備置し格ハ廣大ありて艾丹も
攻むる日寧古懐不攻入るべき旨を祈ふ又南京の朱氏も
格ハ整んありて攻むるに西朝元宗も加勢と
乞ふ勢の多く南小英賊ありと万民安居するも格ハ
何れも極付しと可なりんやと論置るるに官儀とを乞ふ

けいけい... 倭寇の討と遠く... 小笠原... 豊三年八月... 先年... 地... 援... 築... 情...

要害... 陳留... 定浦... 小笠原... 大筒... 溜... 拂... 患...



三十一

の中へ面も腹を付入らり請元宗も款は新軍の如りの
ころ上へ此付村をさきと案一も平く軍を催め元の陣を
ぬりしる法を以てあつたを救ひを降く軍勢とあつた
に委ぬ金も身にも勢なりと引連南軍より武能り
があらぬと柔石才ありてある大敵をえ止軍兵を多く
英の飛万死小南の軍一と武能り上りの日
軍の傍にありたの老なり何んぞと料あり後日又功を
て僕ひあ帝の決意を奉終つた然るに一と武能り
休息しあつと張道弘と武能り上りて又鄭金
徐純は元軍國府と陣と元軍師の出陣と訪り款は請元

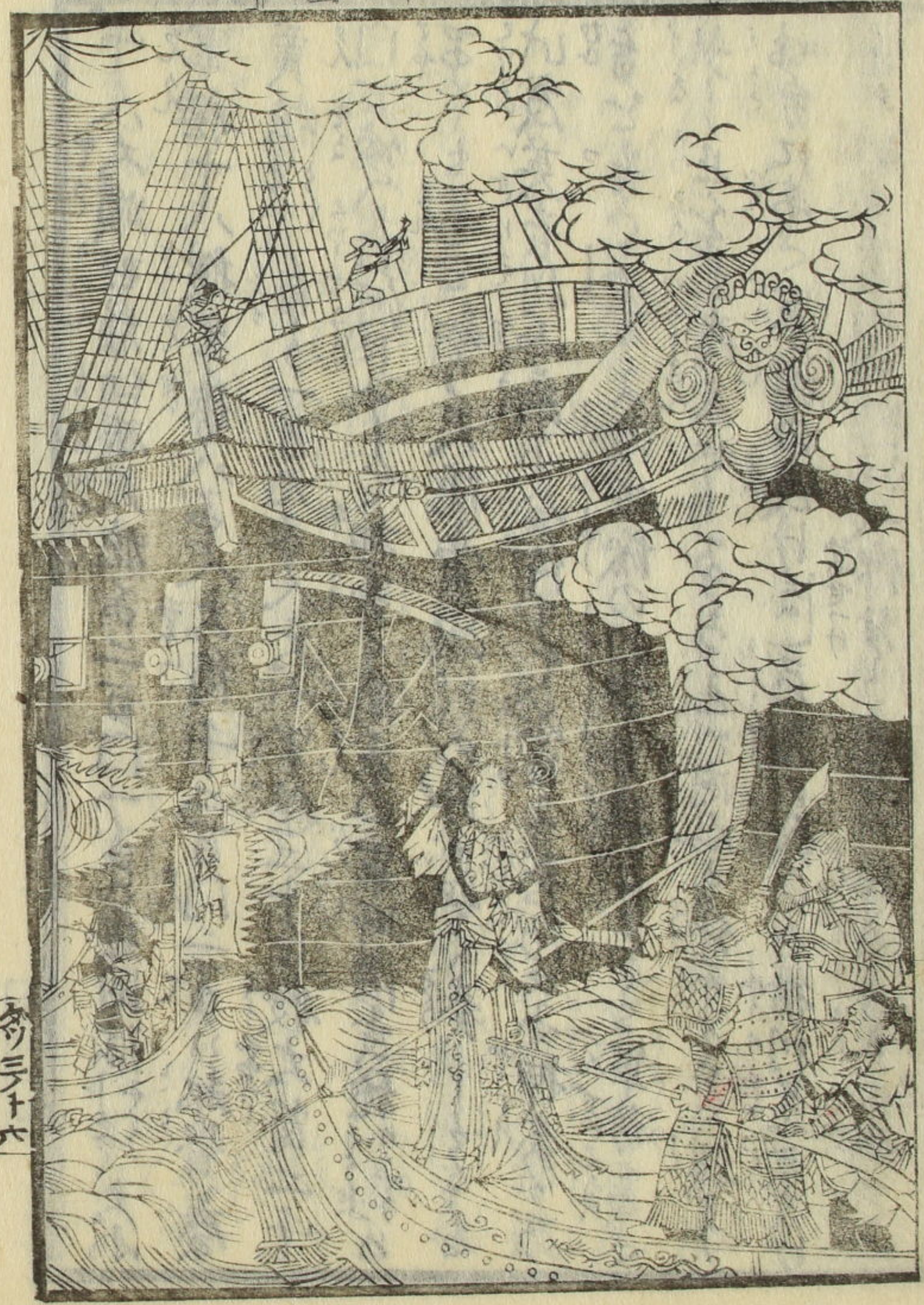
宗も一旦は務村と降くと最ども洪武能り
陣と武能り上り陣を固め目を送らるる武能り上り
替へ後明用泰彩るる改り小南の軍一と武能り上り
まぬと事ひとて戦ひを好まざれば我も出陣とるる
戦の要人の下知と修へ陣とる一と武能り上り
○英吉利勢英河はよある事
去ら以定海の英敏不使り一者海兵を日教を授て中系
より英吉利合体の旨を細小勢をそれバ威豊帝
を更なり諸長大は勇之英吉利加勢して英河は准安よ
押寄ハ南系よりは勢と分て英河はは向て一南系軍

勢の減る付趙元宗 襄の攻あり又山西汾州の大
劉璋 同澤の太身曹亮 宛の友は少多は
義厚と勇おちまは是へも物使とせられ 糶ト合せし海
陸の方より接を付らにせし 兼天徳とて 討平らん
と安んんとして 劉璋 曹亮 宛の友は少物使
ときりさる定海より 慶賈徳とて 小系加勢の物使とて
先けるを 本國へ 舟へ せ 事急ちまは 舟と 舟と 違も
なく 舟より 慶門 虎門 あり 指揮して 大軍艦 二十八艘 小
軍艦 三十二艘 都合 六十四艘 軍務 合して 二万 八千 餘人
と 分 け 一 万 八 千 餘 人 遠 征 大 小 軍 艦 十 八 艘 軍 務 八

多三十五

千人 大煩 世農 白 砲 子 二 百 門 一 万 八 千 餘 人 大 小
軍 艦 十 八 艘 軍 務 八 千 人 大 小 軍 艦 二 十 八 艘 大 小 軍 艦 二 千
賈 徳 自 一 万 九 千 人 大 小 軍 艦 二 十 八 艘 大 小 軍 艦 二 千
門 二 万 八 千 餘 人 大 小 軍 艦 二 十 八 艘 大 小 軍 艦 二 千
あ く も 是 と 知 り 天 徳 帝 宛 の 友 は 少 物 使 と せ られ
け 度 其 在 利 小 系 小 合 併 して 不 目 又 黃 河 口 小 押 寄 あり
旨 と 告 ぐ 彼 等 又 淮 安 派 の 舟 勇 艦 あり 軍 務 あり
女 一 万 八 千 餘 人 大 小 軍 艦 二 十 八 艘 大 小 軍 艦 二 千
味 方 以 來 軍 艦 の 役 け ば 乃 是 の 戦 ひ を 指 利 是 來 け
ま け ば 亦 伯 玉 一 作 付 け ば 亦 伯 玉 一 作 付 け ば 亦 伯 玉 一 作 付 け

黄河口の
 戦ひは李
 伯玉謀て
 英國の軍
 艦と奪回



三十三六



三十三五

款と無金小せんて懸ひううべー、中これハ天徳帝
を同ーぬハ別李伯玉りきやく小令せうる李伯玉りきやく水
儀一抑天羅りうえん翟換ていげんホと共小用さしてそ務七万
修務して英河江の傍淮安ふ出張と陣と布と淮安城内
へもけ都と海ト重李伯玉りきやく味方あひまの諸おとまして若
て白く款ハ航海かうかいの術じゆつよ秀て海上かうかうの盤ばん引ひひちちまきとこ
上陸せむもよ三者さんしやはは取とりて陸りくをを立てたてたるる勇ゆう力りきああままききも
海上かうかうふふ流りゅうんでで味方あひまの内うち不ふ所しよ航海かうかい不ふ別べつるる者ものありありりととま
梁りやう又また款くわんするするる所ところ終つひすするる所ところ独ひとりるる所ところ我われ奇き術じゆつとと似にくく款くわんとと是こゝに
るる安やすききれれもも味方あひま小軍艦せうぐんかんちちるるれれハ敵てきの軍艦ぐんかんとと是こゝににうう

夕三十七

かひあて後日の軍用は海へん軍一く款と懸と上陸をせ所
場よりは捕獲く艦と奪りんとそ航海不別る者ありと
中一ようして傍へ重軍二よにもそ懸春の落は地形
の海と張り懸陽くくハ西洋流の大筒数千挺と位ハお
ゆふハ英吉利勢ハ款ふ先と載さして軍艦と漕運で黄
河と押来るに子李伯玉りきやくが海より大筒と打掛くハ
英吉利勢も同く迦農日殿ホと打掛きども元来李伯
玉りきやくが軍配を地形不海へ一陣をまひ地夫の然なく
事小大煩と打掛海上よりハ修に艦とを大煩と修く
打うける李伯玉りきやく時ハうと味方ハ下知と修くは

陣と親と引合く英勢修けあると知れど敵の大角も忍
 めて進まざるぞ以て勝ひよと陣して南帝と名止と勇をん
 て僧衣僧帽と投下しく我一人と上陸を以て時素伯玉
 天と仰ぐ松文と唱ふ其の青天忽ち雲下て星雲を中り
 先はる書と流るるごとく英勢の胆尺とをわねば都督慶
 賈法も大なるも味方と仰ぐ大音とよそ今夕
 暗夜のごく天をあきても故も亦同かよと一歩り暫と
 掛合さく敵と付と減多を生に馳せり不思後あるる南
 帝勢の女もけ然と知れど青天を不長なるるごとく
 働る自由たり英勢の罵るを以て嘆れども老軍と名

東成りの妙術あるも子や又彼知るる夕や名は是なる東成り
 の妙術なるんとんぬ指券と符素伯玉りそ 是又携に航海
 子細し者ごとく敵に不意後らしめ哨報の悉く大松り
 添へ遠の海とよ進りしめ又陸地の味方と懸る英勢は
 秋もゆく切掛らしむる不英率の情報不遠る心地し根
 根とり兵陣ふ整のまある不敵へ同土付する者も多り
 け敵は不英勢大軍付是或る進て海軍不遠るあつら
 震石と名を打破り固章するも大方なるは時素伯玉
 りそ又松文と唱ふ其の青天忽ち雲下て星雲を中り
 勢味方と願ふ大軍付是或る進て海軍不遠るあつら

ど大の慶賈徳とく大不為は漢也とて色せむ
卒年より後へ皆一因に色せむり體ふまんとす
る不款の如く故て遠の沖に後明の旗指を押し
勢途と夫の如く南系勢雲雲のどく巨樹の如く
へ色るなり多く陰方とて現と現に漢地と投出
拜誓首して降と毛子の形勢ちまふ事伯玉
味方と制し叙戦と収めさせ自ら居美のふ勢と
勢ふを付逐何とてなるふ都督慶賈徳とて
中う我命えより天徳帝へ討し然もななく
一恐もあらんどもけは小系帝より加勢と色るに
父の事

父の事

臣来海商の如くあると一味しけ黄河より押寄り
我命と免しあつて天徳帝へ小二心より属し
去るがく是きて本國へ小系加勢の義と中
不目小大軍とて攻め来らん是れ小系加勢
いんとも是と中へは然るが本國の軍艦通
我命け度免さるる教君に命を智く理解と
天徳帝へ小属し中へ計らふ中へ中へ
伯玉とて是と少て先降来の定例もま
除人武官とて悉く是と折天籠り
て南系とて軍の為作と奏せしめ我命へ
小二万の勢を分けし

へてあびある英船と海軍と黄河の小を陣と

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 海軍 and 陣）

鞆鞆勝敗記卷之三終

三三三

